

2014年度

大学院シラバス

薬学研究科

摂南大学大学院

薬学 研究科

Graduate School of Pharmaceutical Sciences

医療薬学専攻

Division of Pharmaceutical Sciences

薬学研究科の教育目標とカリキュラム編成方針

薬学研究科医療薬学専攻では、医療現場での臨床的課題等を対象とする研究を通して薬学分野の高度な知識・技能・態度を修得し、高度な医療に応えることができる優れた研究能力を有する薬学研究者及び薬剤師等を育成することを目的とする。

本専攻では、「臨床薬学」「健康薬学」「医薬品開発学」の3つの分野で教育課程を構成し、いずれかの分野に重点を置いた医療薬学の全般的な専門知識を統合的、体系的に修得させる。また、各分野の専門知識を深めるために、それぞれに演習科目（「臨床薬学演習」「健康薬学演習」「医薬品開発学演習」の3科目）を設置する。

① 臨床薬学分野

臨床薬学の分野では、臨床の場での課題を見つけ、解決するための知識・技能を教授する。そのために、学内での演習に加えて必要に応じた医療機関での臨床薬学の实地演習（カンファレンスへの参加等）を実施する。

② 健康薬学分野

健康薬学の分野では、国民の健康長寿への社会的要請を背景にして、患者以外にも、広範な人々の未病、予防や健康の維持・増進・回復及び生活の質の改善において指導的な役割を果たす高度専門医療人を養成することを念頭に、環境保健、疾病予防、健康教育・管理、衛生行政、医療制度、社会保障等の実際を教授する。

③ 医薬品開発学分野

医薬品開発学の分野では、ヒトに対する最も有効かつ安全な医薬品及びその投与システムを開発するため必要な理論・知識・技能を教授する。

④ 各分野共通（特別研究）

各分野共通として、「医療薬学特別研究」を設ける。これは全学年を通じた研究活動により博士論文をまとめるための必修科目とする。

授業(指導)計画の記載内容の凡例

授業(指導)計画は、以下の項目に沿って記載しています。

1. 科目名等 全授業(指導)科目名に英文名を併記した。
対象となる年次、開講学期、単位数、担当者の氏名を順に記載した。
2. 授業(指導)概要・目的 授業(指導)全体の概要、各研究科の教育目的に基づいた位置付けを記載した。
3. 到達目標 授業(指導)の目的とする到達目標について、できるだけ具体的に記載した。
4. 指導方法と留意点 授業の進め方や予習・復習の指示、課題やレポートの指示等を記載した。
5. 授業(指導)計画 授業(指導)内容が分かるように、原則として授業(指導)テーマ、内容・方法等を記載した。
6. 評価基準 成績評価の方法について、できるだけ具体的に記載した。
7. 教材等 授業(指導)で使用する教材について記載した。

目 次
<医療薬学専攻>

臨床薬学分野

臨床分析学特論	1
臨床生化学特論	2
臨床病態学特論	3
臨床症候学特論	4
臨床薬理学特論	5
薬物療法学特論	6
医薬品管理学特論	7
臨床漢方医療薬学特論	8
精神医療薬学特論	9
臨床薬学演習	10

健康薬学分野

公衆衛生学特論	11
食品安全学特論	12
感染予防医療薬学特論	13
健康薬学演習	14

医薬品開発学分野

医薬品化学特論	15
製剤学特論	16
薬物動態学特論	17
臨床統計学特論	18
医薬品開発学演習	19

各分野共通

医療薬学特別研究	20
----------	----

科 目 名	配当年次	開講期	単位数	担 当 者
臨床分析学特論 Advanced Clinical Analysis	1	後期	2	アキサワトシフミ、コシモト 秋澤 俊史、小西 元美
【 授業概要・目的 】 本特論では、分析化学の原理を踏まえて、臨床現場で実際に使用されている分析機器並びに診断方法の理論と実際について論じる。具体的には、CT、PET、MRI、内視鏡など、最新画像診断機器の原理と画像解析の基本的な考え方を理解させる。また、遺伝子診断法の原理と方法を教授したうえで、遺伝子診断の有用性や今後の展望、さらに倫理的問題点について論じる。加えて、臨床現場で使用されている診断機器と基礎研究との関連を理解させる。				
【 到達目標 】 医療現場で使用されている最新の診断機器の原理を理解し、基礎研究への応用ができるようになることを目標とする。				
【 指導方法と留意点 】 講義形式およびセミナー形式で行なうので、必ず出席すること。				
【 授業計画 】				
回数	テーマ	内容・方法 等		
1	ELISA を用いた臨床分析 (小西)	ELISA の原理		
2	ELISA を用いた臨床分析 (小西)	ELISA を用いた分析		
3	質量分析装置を用いた臨床分析 (小西)	質量分析装置の原理		
4	質量分析装置を用いた臨床分析 (小西)	MARDI を用いた分析		
5	質量分析装置を用いた臨床分析 (小西)	LC-MS による分析		
6	NMR を用いた臨床分析 (小西)	NMR の原理		
7	NMR を用いた臨床分析 (小西)	NMR を用いた低分子化合物の立体構造解析		
8	NMR を用いた臨床分析 (秋澤)	NMR を用いたペプチド・タンパク質の立体構造解析		
9	PET を用いた臨床分析 (秋澤)	PET の原理		
10	PET を用いた臨床分析 (秋澤)	PET 用診断薬の開発		
11	PET を用いた臨床分析 (秋澤)	PET 用診断薬の開発		
12	医薬品開発を目指した基礎研究 (秋澤)	医薬品シーズの検索		
13	医薬品開発を目指した基礎研究 (秋澤)	活性化化合物の分離・精製・構造解析		
14	医薬品開発を目指した基礎研究 (秋澤)	構造 - 活性相関		
15	医薬品開発を目指した基礎研究 (秋澤)	活性化化合物の血中濃度の測定		
【 評価基準 】 受講態度および課題到達度により評価する。				
【 教 材 等 】 薬剤師に必要な臨床機器分析 (廣川書店、4000円)			【 備 考 】	

科 目 名	配当年次	開講期	単位数	担 当 者
臨床生化学特論 Advanced Clinical Biochemistry	1	後期	2	オオツカ マサト、タケウチ ケンジ 大塚 正人、竹内 健治
【 授業概要・目的 】 本特論では、生化学の原理を踏まえて、臨床における生化学・栄養学の理論と実際について論じる。各種代謝異常等による病態を理解させ、その最新治療法の実際について論じる。また、臨床栄養学分野の最新情報の収集と理解を通して、効果的な薬物療法への寄与等について論じる。				
【 到達目標 】 最新の臨床生化学の実態を理解して、考察することが出来る。				
【 指導方法と留意点 】 講義形式及びセミナー形式で行うので、必ず出席すること。				
【 授業計画 】				
回数	テーマ	内容・方法 等		
1	構造生物学と医療（大塚）	構造生物学の手法と医療への応用		
2	薬物輸送体の生化学（大塚）	薬物輸送体の構造と機能について		
3	代謝異常による病気Ⅰ（大塚）	代謝異常による病態についてⅠ		
4	代謝異常による病気Ⅱ（大塚）	代謝異常による病態についてⅡ		
5	老化と病態Ⅰ（大塚）	老化による様々な病態についてⅠ		
6	老化と病態Ⅱ（大塚）	老化による様々な病態についてⅡ		
7	生体防御と感染症（大塚）	免疫及びアレルギー疾患について		
8	遺伝子治療（大塚）	遺伝子診断とオーダーメイド医療について		
9	がんの本性（竹内）	がんとはどういうものなのかについて		
10	腫瘍ウイルス（竹内）	腫瘍ウイルスはどのようにがんを引き起こすのかについて		
11	細胞性がん遺伝子（竹内）	細胞性がん遺伝子によるがん化について		
12	がん抑制遺伝子（竹内）	がん抑制遺伝子の不活化によるがん形成について		
13	増殖因子、増殖因子受容体とがん（竹内）	がん化の原因としての、増殖因子受容体の恒常的活性化について		
14	細胞内シグナル伝達とがん（竹内）	がん化の原因としての、細胞内シグナル伝達の増強について		
15	がんの標的治療（竹内）	臨床で使用されている標的治療薬による抗がん作用の分子機構について		
【 評価基準 】 受講態度及び課題達成度をレポート課題等を通じて総合的に判断する。				
【 教 材 等 】 (参考書) リッピンコットシリーズ イラストレイテッド 生化学 原書4版 発行元：丸善出版 8,000円＋税、ワインバーグがんの生物学 武藤誠・青木正博訳 南江堂 12,000円＋税		【 備 考 】		

科 目 名	配当年次	開講期	単位数	担 当 者
臨床病態学特論 Advanced Clinical Pathology	1	後期	2	コウノタケユキ、マツウラ テツロウ、オサキ キヨカス 河野 武幸、松浦 哲郎、尾崎 清和
【 授業概要・目的 】				
<p>疾病の病因・病態・診断を統合的に理解することによって、薬剤師として能動的に薬物治療に参画できる資質が身につく。即ち、薬物による治療計画を立案するには、これらに関する最新情報に傾注し、情報を収集するとともに情報の確度を評価しておく必要がある。本特論では、膠原病・リウマチ・アレルギー内科、呼吸器内科、胆・肝・膵を含む消化器内科、血液内科、腎・泌尿器内科、皮膚科等で診療される疾病について、最新の基礎及び臨床情報を知り、それらを実地臨床に応用できる能力を身につけることを目的とする。</p>				
【 到達目標 】				
<p>コースコンピテンス：薬物療法を総合的に評価し、患者への説明、処方設計の提案及び安全対策等の薬学的管理が実践できる。 ユニットコンピテンス：1) 本特論で取扱う疾患の病因と病態に関する理解を実地臨床に応用できる。 2) 本特論で取扱う疾患の最新の治療ガイドラインに関する理解を実地臨床に応用できる。</p>				
【 指導方法と留意点 】				
PBL (Problem-based learning)、TBL (Task-based learning) 等の能動的学習を行います。予め指示された内容について自己学習をしておいて下さい。				
【 授業計画 】				
回数	テーマ	内容・方法 等		
1	関節リウマチ (河野)	内容：関節リウマチの病態理解と抗体製剤などの新規関節リウマチ治療薬 方法：PBL、教材：プリント		
2	気管支喘息 (河野)	内容：気管支喘息の病態理解と最新治療ガイドライン 方法：PBL、教材：プリント		
3	アトピー性皮膚炎 (河野)	内容：難治性アトピー性皮膚炎の病態理解と最新治療ガイドライン 方法：PBL、教材：プリント		
4	ウイルス性肝炎 (河野)	内容：C型肝炎の病態理解と最新治療コンセンサス 方法：PBL、教材：プリント		
5	1～4回目までの疾患に関するTBL (河野)	内容・方法：上記4疾患の治療計画立案に関するTBL 教材：プリント		
6	糖尿病網膜症 (松浦)	内容：糖尿病網膜症の病態病理の理解 方法：PBL、教材：プリント		
7	加齢黄斑変性症および色素変性症 (松浦)	内容：加齢黄斑変性症および網膜色素変性症の病態病理の理解 方法：PBL、教材：プリント		
8	歯周病 (松浦)	内容：歯周病の病態病理の理解 方法：PBL、教材：プリント		
9	唾液腺炎 (松浦)	内容：シェーグレン症候群を含む唾液腺炎の病態病理の理解 方法：PBL、教材：プリント		
10	6～9回目までの疾患に関するTBL (松浦)	内容・方法：上記4疾患の治療に関するTBL 教材：プリント		
11	非アルコール性脂肪肝炎 (尾崎)	内容：非アルコール性脂肪肝炎の病態病理の理解 方法：PBL、教材：プリント		
12	頭頸部及び胃癌 (尾崎)	内容：頭頸部及び胃癌の病態病理の理解 方法：PBL、教材：プリント		
13	多発神経障害 (尾崎)	内容：糖尿病性神経症を含む多発神経障害の病態病理の理解 方法：PBL、教材：プリント		
14	慢性腎疾患 (尾崎)	内容：糖尿病性腎症を含む慢性腎疾患の病態病理の理解 方法：PBL、教材：プリント		
15	11～14回目までの疾患に関するTBL (尾崎)	内容・方法：上記4疾患の治療に関するTBL 教材：プリント		
【 評価基準 】				
評価方法：到達度は、1) TBL時の観察記録 (50点) 及びTBL時のレポート (50点) で評価します。100点満点中60点以上を合格とします。				
【 教 材 等 】			【 備 考 】	
プリント、内科学 (杉本恒明、矢崎義雄 編、朝倉書店、購入の必要はありません)、他			河野：病態医科学研究室 (1号館3階) 松浦、尾崎：病理学研究室 (6号館3階) 内容と順番を変更することがあります。	

科 目 名	配当年次	開講期	単位数	担 当 者
臨床症候学特論 Advanced Clinical Symptomatology	1	前期	2	コサキ アツシ 小崎 篤志
【 授業概要・目的 】 症候学とは、疾病を病因や病態がとらえるのではなく、患者の示す様々な訴えや診察所見から疾病を定義・分類して意味づけを与える方法論である。本特論では、これらの方法論や情報等の学習を通して、症候から処方医薬品の処方提案やOTCによる治療について論じる。				
【 到達目標 】 (1) 身体の病的変化を理解するために、代表的な症候と臨床検査値に関する基本的知識を修得する。 (2) 各々の症候に対する鑑別疾患を列挙し、その病態生理および鑑別法を概説できる。 (3) 各々の疾患の薬物治療を学ぶ。				
【 指導方法と留意点 】 ビデオを視聴しながらセミナー形式で行う。				
【 授業計画 】				
回数	テーマ	内容・方法 等		
1	臨床症候学 1	「四肢運動障害」の病態生理、鑑別法および各々の疾患の薬物治療を学ぶ。		
2	臨床症候学 2	「痛み」の病態生理、鑑別法および各々の疾患の薬物治療を学ぶ。		
3	臨床症候学 3	「ふらつき」の病態生理、鑑別法および各々の疾患の薬物治療を学ぶ。		
4	臨床症候学 4	「呼吸困難」の病態生理、鑑別法および各々の疾患の薬物治療を学ぶ。		
5	臨床症候学 5	「嘔気」の病態生理、鑑別法および各々の疾患の薬物治療を学ぶ。		
6	臨床症候学 6	「発熱」の病態生理、鑑別法および各々の疾患の薬物治療を学ぶ。		
7	臨床症候学 7	「腹痛①」の病態生理、鑑別法および各々の疾患の薬物治療を学ぶ。		
8	臨床症候学 8	「倦怠感」の病態生理、鑑別法および各々の疾患の薬物治療を学ぶ。		
9	臨床症候学 9	「頸部痛」の病態生理、鑑別法および各々の疾患の薬物治療を学ぶ。		
10	臨床症候学 1 0	「手の痛み」の病態生理、鑑別法および各々の疾患の薬物治療を学ぶ。		
11	臨床症候学 1 1	「腹痛②」の病態生理、鑑別法および各々の疾患の薬物治療を学ぶ。		
12	臨床症候学 1 2	「記憶障害」の病態生理、鑑別法および各々の疾患の薬物治療を学ぶ。		
13	臨床症候学 1 3	「筋力低下」の病態生理、鑑別法および各々の疾患の薬物治療を学ぶ。		
14	臨床症候学 1 4	「意識障害」の病態生理、鑑別法および各々の疾患の薬物治療を学ぶ。		
15	臨床症候学 1 5	まとめ		
【 評価基準 】 受講態度および課題発表などで総合的に評価する。				
【 教 材 等 】 プリント配布			【 備 考 】	

科 目 名	配当年次	開講期	単位数	担 当 者
臨床薬理学特論 Advanced Clinical Pharmacology	1	前期	2	オキタキヨカス、クラモト ノブユキ 荻田 喜代一、倉本 展行
【 授業概要・目的 】 本特論では、薬理学の原理を踏まえて、臨床における薬物の理論と実際について論じる。患者毎の最適な薬物の選択、投与方法・投与量・投与間隔など投与計画を策定することにより最大の薬物有効性及び最小の副作用をもたらす情報を収集して体系化・理論化する。本特論では、①ヒトを対象とした人間薬理学、②臨床における薬物の有効性・安全性を評価する臨床薬物評価などを中心に論じる。				
【 到達目標 】 臨床の場で汎用されている医薬品の最新情報を収集し、その医薬品の適切な適用法について習得する。				
【 指導方法と留意点 】 学生自身が課題を見つけて、その課題を解決することに重点をおいた指導を行う。また、プレゼンテーション法の指導も行う。英語でのプレゼンテーションにも挑戦していただきます。				
【 授業計画 】				
回数	テーマ	内容・方法 等		
1	新薬について（荻田）	2013年に認可された新規医薬品について概説する。		
2	新薬の基礎研究、臨床研究、臨床適用について（荻田）	2013年に認可された新規医薬品の有効性・安全性に関する基礎研究および臨床研究について調査・理解する。		
3	新薬の基礎研究、臨床研究、臨床適用について（荻田）	2013年に認可された新規医薬品の有効性・安全性に関する基礎研究および臨床研究について調査・理解する。		
4	新薬の基礎研究、臨床研究、臨床適用について（荻田）	2013年に認可された新規医薬品の有効性・安全性に関する基礎研究および臨床研究について調査・理解する。		
5	新薬の基礎研究、臨床研究、臨床適用について（荻田）	2013年に認可された新規医薬品の有効性・安全性に関する基礎研究および臨床研究について調査・理解する。		
6	骨粗鬆症治療薬（荻田）	骨粗鬆症治療薬の臨床適応の実際について学習する。		
7	下部尿路機能障害治療薬（荻田）	下部尿路機能障害治療薬の臨床適応の実際について学習する。		
8	甲状腺機能異常治療薬（荻田）	甲状腺機能異常治療薬の臨床適応の実際について学習する。		
9	心房粗細動治療薬（荻田）	心房粗細動治療薬の臨床適応の実際について学習する。		
10	炎症性腸症候群治療薬（荻田）	炎症性腸症候群治療薬の臨床適応の実際について学習する。		
11	緑内障治療薬（倉本）	緑内障治療薬の臨床適応の実際について学習する。		
12	肺がんの分子標的治療薬（倉本）	肺がんの分子標的治療薬の臨床適応の実際について学習する。		
13	小児用ワクチン（倉本）	小児用ワクチンの臨床適応の実際について学習する。		
14	英語による研究発表法（倉本）	英語により各自の研究成果を発表する。		
15	英語による研究発表法（倉本）	英語により各自の研究成果を発表する。		
【 評価基準 】 課題到達度（50%）、筆記試験（50%）。60%で合格とする。				
【 教材等 】 プリント等		【 備考 】		

科 目 名	配当年次	開講期	単位数	担 当 者
薬物療法学特論 Advanced Drug Therapeutics	1	前期	2	マエダ サダアキ、ヨシオカ ヤスヒロ 前田 定秋、吉岡 靖啓
【 授業概要・目的 】 本特論では、解剖学、生理学、薬理学及び薬物治療学の基礎知識をもとに、実際に臨床現場において実施されている各種疾患に対する薬物療法とその問題点について論じる。薬の有効性と安全性を確保しつつ、医薬品の適正使用を実施するための知識と技能並びに緩和医療に必要な薬物療法について論じるとともに、緩和ケアに必要なコミュニケーションスキルを身につけさせる。				
【 到達目標 】 各種疾患に対する最新の薬物療法を理解し、その問題点について考察することが出来る。				
【 指導方法と留意点 】 各テーマについて自習後、セミナー形式で行う。必ず出席すること。				
【 授業計画 】				
回数	テーマ	内容・方法 等		
1	循環器疾患（1）	循環器疾患の薬物療法（前田）		
2	循環器疾患（2）	循環器疾患の薬物療法（前田）		
3	消化器疾患（1）	消化器疾患の薬物療法（前田）		
4	消化器疾患（2）	消化器疾患の薬物療法（前田）		
5	悪性腫瘍（1）	悪性腫瘍の薬物療法（前田）		
6	悪性腫瘍（2）	悪性腫瘍の薬物療法（前田）		
7	緩和ケア（1）	緩和ケアにおける薬物療法（前田）		
8	緩和ケア（2）	緩和ケアにおける薬物療法（前田）		
9	腎疾患（1）	腎疾患の薬物療法（吉岡）		
10	腎疾患（2）	腎疾患の薬物療法（吉岡）		
11	血液疾患（1）	血液疾患の薬物療法（吉岡）		
12	血液疾患（2）	血液疾患の薬物療法（吉岡）		
13	内分泌疾患（1）	内分泌疾患の薬物療法（吉岡）		
14	内分泌疾患（2）	内分泌疾患の薬物療法（吉岡）		
15	まとめ	上記トピックについてのレポートを作成する。（吉岡）		
【 評価基準 】 受講態度および課題到達度より総合的に評価する。				
【 教 材 等 】 プリント、スライド等			【 備 考 】	

科 目 名	配当年次	開講期	単位数	担 当 者
医薬品管理学特論 Advanced Clinical Drug Management	1	前期	2	シュウ マコト 首藤 誠
【 授業概要・目的 】 医療現場において、医薬品の正確かつ円滑な供給や医薬品の適正使用は薬物治療及びリスクマネジメントの観点からきわめて重要な課題である。本特論では、有効な薬物治療や医療過誤の回避などに必要な医薬品管理について実例を通して論じる。また、医療の更なる向上を目指した医薬品管理や医薬品情報管理について考察させる。				
【 到達目標 】 医薬品の適正使用・リスクマネジメントのための情報収集と情報の精査ができる。				
【 指導方法と留意点 】 講義形式、グループワーク及びセミナー形式で行うので、出席すること。				
【 授業計画 】				
回数	テーマ	内容・方法 等		
1	医薬品情報概論	医薬品情報について概説		
2	医療現場における医薬品情報と評価	医薬品情報の収集と評価		
3	医療現場における医薬品情報と評価	医薬品情報の収集と評価		
4	医薬品情報とリスクマネジメント	総論		
5	医薬品情報とリスクマネジメント	薬剤関連業務の安全と効率化		
6	医薬品情報とリスクマネジメント	薬剤関連業務の安全と効率化		
7	E BMの導入	シナリオ1 症例に対する薬物治療の選択		
8	E BMの導入	シナリオ1 症例に対する薬物治療の選択		
9	E BMの導入	シナリオ1 症例に対する薬物治療の選択		
10	E BMの実践1	シナリオ2 症例に対する薬物治療の選択（予後）		
11	E BMの実践1	シナリオ2 症例に対する薬物治療の選択（予後）		
12	E BMの実践1	シナリオ2 症例に対する薬物治療の選択（予後）		
13	E BMの実践2	シナリオ3 症例に対する薬物治療の選択（副作用）		
14	E BMの実践2	シナリオ3 症例に対する薬物治療の選択（副作用）		
15	E BMの実践2	シナリオ3 症例に対する薬物治療の選択（副作用）		
【 評価基準 】 受講態度と課題到達度で評価する。				
【 教 材 等 】 プリント等			【 備考 】	

科 目 名	配当年次	開講期	単位数	担 当 者
臨床漢方医療薬学特論 Advanced Kampo Pharmacy	1	後期	2	ヤベ タケン 矢部 武士
【 授業概要・目的 】 西洋薬(新薬)での治療が困難な種々の疾患に対して、漢方薬が一定の治療効果を示す場合があり、その有用性から現代医療の臨床現場で今なお多用されている。本特論では、漢方医学の基本的概念について理解を深めるとともに、現在汎用されている漢方処方による治療の実際について学習させる。また、漢方処方の治療メカニズムについて学習し、漢方薬を用いた新たな疾患治療の可能性についても考察させる。				
【 到達目標 】 漢方処方が有する作用、その作用機序及び薬効成分の解明に関する研究方法を総合的に理解する。また現代医療における漢方医学の現状や可能性について理解し、考察することができる。				
【 指導方法と留意点 】 講義形式及びセミナー形式で行うので、必ず出席すること。				
【 授業計画 】				
回数	テーマ	内容・方法 等		
1	漢方医学総論(1)	漢方医学の歴史、特徴、および現代医療における現状について		
2	漢方医学総論(2)	同上		
3	漢方医学総論(3)	同上		
4	漢方医学総論(4)	同上		
5	漢方医学総論(5)	同上		
6	漢方医学総論(6)	同上		
7	漢方薬の作用メカニズム(免疫系など)	喘息、アトピー性疾患への応用		
8	漢方薬の作用メカニズム(癌など)	抗癌剤の副作用軽減・消化器系疾患への応用		
9	漢方薬の作用メカニズム(内分泌系など)	更年期障害への応用		
10	漢方薬の作用メカニズム(循環器疾患)	循環器疾患への応用		
11	漢方薬の作用メカニズム(神経変性疾患)	アルツハイマー病への応用など		
12	漢方薬の作用メカニズム(精神疾患)	うつ・不安への応用		
13	漢方薬の作用メカニズム(その他)	新薬との併用効果など		
14	漢方薬のEBM・副作用	漢方医学におけるEBMの必要性、及び間質性疾患などの副作用について		
15	まとめ	上記トピックについてのレポートを作成する。		
【 評価基準 】 講義での質疑応答を含めた受講態度、課題・レポートの内容、提出状況などをみて総合的に評価する。				
【 教 材 等 】 プリントなど		【 備 考 】		

科 目 名	配当年次	開講期	単位数	担 当 者
精神医療薬学特論 Advanced Clinical Pharmacy in Mental Health	1	後期	2	オギタキヨカス、クラモトノブユキ、ヨネヤマ マサリ 荻田 喜代一、倉本 展行、米山 雅紀
【 授業概要・目的 】 精神科領域において求められる薬剤師の専門性とは、精神疾患、向精神薬、精神保健福祉などに関する知識とその知識を臨床薬剤師業務に反映する技術である。本特論では、精神科領域の薬剤師の専門性を理解するために、精神科医療全体を理解したうえで、向精神薬等による適切な薬物治療を支援するための専門的な技術を論じる。さらに、精神科チーム医療における処方管理責任者としての薬剤師となるために、精神科領域の医療スタッフを交えたより専門性の高い精神科薬物療法について論じる。				
【 到達目標 】 臨床の場で汎用されている神経精神科領域の医薬品の最新情報を収集し、その医薬品の適切な適用法について習得する。				
【 指導方法と留意点 】 学生自身が課題を見つけて、その課題を解決することに重点をおいた指導を行う。また、プレゼンテーション法の指導も行う。英語でのプレゼンテーションにも挑戦していただきます。				
【 授業計画 】				
回数	テーマ	内容・方法 等		
1	脳の解剖と機能（倉本）	脳の解剖と機能について学習する。		
2	脳の機能と精神（倉本）	精神活動に関わる脳の機能について学習する。		
3	脳の機能と精神（倉本）	精神活動に関わる脳の機能について学習する。		
4	統合失調症、統合失調症型障害および妄想型障害（荻田）	統合失調症、統合失調症型障害および妄想型障害の治療・対応に関する最新情報を調査・学習する。		
5	うつ病（荻田）	うつ病の治療・対応に関する最新情報を調査・学習する。		
6	神経症性障害（荻田）	神経症性障害の治療・対応に関する最新情報を調査・学習する。		
7	ストレス関連障害および身体表現性障害（荻田）	ストレス関連障害および身体表現性障害の治療・対応に関する最新情報を調査・学習する。		
8	器質性障害（荻田）	器質性障害の治療・対応に関する最新情報を調査・学習する。		
9	パーキンソン病（荻田）	パーキンソン病の治療・対応に関する最新情報を調査・学習する。		
10	パーキンソン病（荻田）	パーキンソン病の治療・対応に関する最新情報を調査・学習する。		
11	アルツハイマー型認知症（荻田）	アルツハイマー型認知症の治療・対応に関する最新情報を調査・学習する。		
12	脳血管障害型認知症（米山）	脳血管障害型認知症の治療・対応に関する最新情報を調査・学習する。		
13	脳血管障害型認知症（米山）	脳血管障害型認知症の治療・対応に関する最新情報を調査・学習する。		
14	英語による研究発表法（米山）	英語により各自の研究成果を発表する。		
15	英語による研究発表法（倉本）	英語により各自の研究成果を発表する。		
【 評価基準 】 課題到達度（50%）、筆記試験（50%）。60%で合格とする。				
プリント等		【 備考 】		

科 目 名	配当年次	開講期	単位数	担 当 者
臨床薬学演習 Clinical Pharmacy Seminar	1	通年	6	アキサワトシミ 秋澤 俊史
【 授業（指導）概要・目的 】 医療現場の高度な薬物療法に対応できる薬剤師あるいは高度な薬物療法を研究・実践できる薬剤師となるために、連携医療機関・薬剤部での薬物治療カンファレンス等による実践的な演習を実施する。また、連携医療機関での感染対策チームや緩和医療チームでのカンファレンスでの短期演習も必要に応じて実施する。				
【 到達目標 】 医療現場での高度な薬物療法に対応できる知識・技能を修得し、その薬物療法を実践できる。				
【 指導方法と留意点 】 演習指導担当教員と連携医療機関の担当者との協議により、教育効果の高い演習計画を策定後、両当事者が連携を密にとりながら個別指導する。				
【 授業（指導）計画 】 ①演習課題についての情報収集の方法を指導する。 ②演習課題を実施するにあたっての技術を指導する。 ③演習成果の正確な解析法を指導する。 ④演習成果に対する考察について指導する。 ⑤学術論文を熟読し、その内容について議論する。 ⑥演習レポートの作成法を指導する。				
【 評価基準 】 演習への取り組み態度および課題到達度より総合的に評価する。				
【 教 材 等 】 学術論文等			【 備 考 】 オギタ キヨカス、オツカ マサト、コウノ タケユキ、マエダ サダアキ 狛田 喜代一、大塚 正人、河野 武幸、前田 定秋 コサキ アツシ、ヤヘ タカシ、クラモト ノブユキ、シエトリ マコト、マツウラ テツロウ 小崎 篤志、矢部 武士、倉本 展行、首藤 誠、松浦 哲郎	

科 目 名	配当年次	開講期	単位数	担 当 者
公衆衛生学特論 Advanced Public Health Sciences	1	後期	2	ウェノヒトシ 上野 仁
【 授業概要・目的 】 本特論では、予防医学の概念を踏まえ、薬学領域における疾病予防のための高度な理論と実践について理解し、疫学方法論と実践方法、データ処理にかかる統計学及び疫学事例をもとに疫学研究手法を習得する。本特論を通じて、ストレスの生理学、抗酸化酵素と抗酸化物質、ならびにそれらと老化や疾病との関わりなどについて概説し、疾病予防に必要な高度な知識や情報を収集することができる。				
【 到達目標 】 最新の公衆衛生学の実際の情報を理解して、考察することができる。				
【 指導方法と留意点 】 講義形式およびセミナー形式で行うので、必ず出席すること。				
【 授業計画 】				
回数	テーマ	内容・方法 等		
1	公衆衛生学における疾病予防の概念	疾病予防の概念と疫学研究について概説する。		
2	必須元素と疾病予防(I)	必須元素の生理作用 (I) について概説する。		
3	必須元素と疾病予防(II)	必須元素の生理作用 (II) について概説する。		
4	必須元素と疾病予防(III)	必須元素と免疫応答について概説する。		
5	必須元素と疾病予防(IV)	必須元素と酸化ストレスおよび生活習慣病予防について概説する。		
6	必須元素と疾病予防(V)	必須元素の摂取基準の意義とその設定の考え方について調査・学習する。		
7	必須元素と疾病予防(VI)	必須元素の摂取基準の意義とその設定の考え方について調査・学習する。		
8	必須元素と疾病予防(VII)	必須元素の摂取基準の意義とその設定の考え方について調査・学習する。		
9	必須元素と疾病予防(VIII)	必須元素と酸化ストレスおよび生活習慣病予防について調査・学習する。		
10	薬学研究における疫学的手法(I)	疫学の基礎、統計的手法について概説する。		
11	薬学研究における疫学的手法(II)	疫学研究の方法論と問題点について調査・学習する。		
12	薬学研究における疫学的手法(III)	疫学研究の方法論と問題点について調査・学習する。		
13	薬学研究における疫学的手法(IV)	薬学分野における疫学研究の応用と実践について調査・学習する。		
14	薬学研究における疫学的手法(V)	薬学分野における疫学研究の応用と実践について調査・学習する。		
15	薬学研究における疫学的手法(VI)	薬学分野における疫学研究の応用と実践について調査・学習する。		
【 評価基準 】 受講態度および課題到達度をレポートなどで総合的に評価する。				
【 教 材 等 】 プリント等		【 備 考 】		

科 目 名	配当年次	開講期	単位数	担 当 者
食品安全学特論 Advanced Food Safety Sciences	1	前期	2	オタソウイチ 太田 壮一
【 授業概要・目的 】 本特論では、予防医学の概念を踏まえ、食品の安全性に関する理論と実際について論じる。内容としては、国（内閣府）設置の食品安全委員会等で問題視されている食品中の種々の健康有害因子に関する最新情報の収集とその理解・対策法等について学習する。また、高齢化社会を迎えて、益々増加することが予測される服用薬物と健康食品・サプリメントとの併用による健康影響等の理論と実際についても学習する。最終的に、各自が重要と思われる食品摂取の意義と問題点に関する調査活動（自由課題研究）を行い、その発表会を行うと共に、その内容について相互討論を実施する。				
【 到達目標 】 食品の安全性に関する最新かつ高度な情報を理解して、考察することができる。				
【 指導方法と留意点 】 講義形式及びセミナー形式（自由討論・発表会の他、食品安全関連の英文輪読会も実施）を、適宜、織り交ぜながら講義を行うので、必ず出席すること。				
【 授業計画 】				
回数	テーマ	内容・方法 等		
1	食品中の健康有害因子の理解と実際（1）	有害化学物質（農薬・食品添加物）・講義		
2	食品中の健康有害因子の理解と実際（2）	有害化学物質（環境汚染物質）・講義		
3	食品中の健康有害因子の理解と実際（3）	食物アレルギー及び遺伝子組換え食品・講義		
4	食品中の健康有害因子の理解と実際（4）	BSE、トランス脂肪酸、食中毒・講義、		
5	食品中の健康有害因子の理解と実際（5）	放射性物質、その他・講義		
6	健康食品・サプリメントの理解と実際（1）	保健機能食品（1）・講義		
7	健康食品・サプリメントの理解と実際（2）	保健機能食品（2）・講義		
8	健康食品・サプリメントの理解と実際（3）	特別用途食品・講義		
9	健康食品・サプリメントの理解と実際（4）	健康食品と服用医薬品との相互作用と問題点（1）・講義		
10	健康食品・サプリメントの理解と実際（5）	健康食品と服用医薬品との相互作用と問題点（2）・講義		
11	予防医学的観点から見た食品摂取の意義と問題点（1）	左記の授業テーマに関して、各自が自由に調査活動を行い、重要点を整理する・自由課題研究		
12	予防医学的観点から見た食品摂取の意義と問題点（2）	左記の授業テーマに関して、各自が自由に調査活動を行い、重要点を整理する・自由課題研究		
13	予防医学的観点から見た食品摂取の意義と問題点（3）	左記の授業テーマに関して、各自が自由に調査活動を行い、重要点を整理する・自由課題研究		
14	予防医学的観点から見た食品摂取の意義と問題点（4）	左記の授業テーマに関して、各自が自由に調査活動を行い、重要点を整理する・自由課題研究		
15	自由課題の成果発表	各自が調査した自由課題の研究内容について、発表会を行うと共に、その内容について相互討論を実施する・自由課題研究		
【 評価基準 】 成績評価は、評価点を100点満点とし、60点以上で合格とする。評価内容は受講態度（50%）及び課題発表内容・レポート（50%）で総合的に評価する。				
【 教材等 】 プリント等		【 備考 】 太田：1号館5階（環境保健学研究室） TEL 072-866-3120		

科 目 名	配当年次	開講期	単位数	担 当 者
感染予防医療薬学特論 Advanced Clinical Pharmacy in Infection Control	1	前期	2	タカマツヒロム 高松 宏治
【 授業概要・目的 】 本特論では、感染症学及び微生物学の原理を踏まえて公衆衛生及び臨床における感染症の予防と医療の理論と実際について論じる。また、遺伝子レベル・分子レベルからみたヒトと病原微生物の関わりについて論じる。さらに、病原体の検出・防除や、感染症の予防・治療に用いる薬剤やワクチンの最先端について論じる。これの学習を通して学問的興味を高めつつ、問題発見能力、客観的な分析能力、および情報発信能力を身につける。				
【 到達目標 】 最新の細胞生物学的に基づいて感染症、治療法、予防法等について理解し、自立的に情報収集し、臨床における関連課題を発見し、それらを解決する能力を身につける。				
【 指導方法と留意点 】 感染症とその予防や治療に関する様々なテーマについて教科書や参考資料などをもとに討論する。Active learningを主軸としたセミナー形式で行う。参考書や学術論文をもとに自ら発表資料を作成し、その内容を説明すること。				
【 授業計画 】				
回数	テーマ	内容・方法 等		
1	感染症とその原因・予防・治療を学ぶ	内容：感染症について学ぶために必要なことや学習意義について考える 方法：自由討論		
2	病原体とは何か	内容：病原体の定義、種類、特徴などについて学ぶ 方法：教科書・参考資料の読解、プレゼンテーション、自由討論		
3	病原微生物研究の最前線	内容：病原微生物に関する研究の最先端について学ぶ 方法：最新論文等の検索と読解、プレゼンテーション、自由討論		
4	感染症との戦い	内容：感染症の歴史について学ぶ 方法：教科書・参考資料の読解、プレゼンテーション、自由討論		
5	世界の感染症の現状	内容：世界の感染症の現状について学ぶ 方法：教科書・参考資料の読解、プレゼンテーション、自由討論		
6	我が国の感染症の現状	内容：我が国の感染症の現状について学ぶ 方法：教科書・参考資料の読解、プレゼンテーション、自由討論		
7	感染症発症機構の概要	内容：感染症の発症機構について学ぶ 方法：教科書・参考資料の読解、プレゼンテーション、自由討論		
8	感染症発症機構研究の最先端	内容：感染症の発症機構に関する研究の最先端について学ぶ 方法：最新論文等の検索と読解、プレゼンテーション、自由討論		
9	微生物防除の概要	内容：微生物の制御と防除法の概要について学ぶ 方法：教科書・参考資料の読解、プレゼンテーション、自由討論		
10	微生物防除研究の最先端	内容：微生物防除に関する研究の最先端について学ぶ 方法：最新論文等の検索と読解、プレゼンテーション、自由討論		
11	感染症予防の概要	内容：感染症予防の概要について学ぶ 方法：教科書・参考資料の読解、プレゼンテーション、自由討論		
12	感染症予防研究の最先端	内容：感染症予防に関する研究の最先端について学ぶ 方法：最新論文等の検索と読解、プレゼンテーション、自由討論		
13	感染症治療の概要	内容：感染症治療の概要について学ぶ 方法：教科書・参考資料の読解、プレゼンテーション、自由討論		
14	感染症治療研究の最先端	内容：感染症治療に関する研究の最先端について学ぶ 方法：最新論文等の検索と読解、プレゼンテーション、自由討論		
15	まとめ	内容：学習成果のまとめ、到達目標達成度合いの評価 方法：プレゼンテーション、自己評価、自由討論		
【 評価基準 】 課題到達度を受講態度、プレゼンテーション、自由討論により評価する。				
【 教 材 等 】 参考書・プリント・学術論文等を適宜使用する。			【 備考 】 臨床における問題解決能力や、研究開発能力の修得を目指して一緒に努力しましょう。	

科 目 名	配当年次	開講期	単位数	担 当 者
健康薬学演習 Health Pharmacy Seminar	1	通年	6	ウエノ ヒシ、オオタソウイチ 上野 仁、太田 壮一
【 授業（指導）概要・目的 】 医療現場における疾病予防などの臨床的課題や生活の質の改善などの衛生管理に実践的に対応できる薬剤師となるために、連携医療機関での感染対策チーム（ICT）や栄養サポートチーム（NST）などのカンファレンスへの参加を通し、実践的な演習を実施する。また、医薬品等の副作用に関する疫学調査の演習も必要に応じて実施する。				
【 到達目標 】 医療現場での疾病予防に関する臨床的課題や生活の質の改善などの衛生管理に実践的に対応できる知識・技能を修得する。				
【 指導方法と留意点 】 演習指導担当教員と連携医療機関の担当者との緊密な協議により、教育効果が高い演習計画を策定後、両担当者が連携を密にとりながら個別指導する。				
【 授業（指導）計画 】 ①演習課題についての情報収集の方法を指導する。 ②演習課題を実施するにあたっての技術を指導する。 ③演習成果の正確な解析法を指導する。 ④演習成果に対する考察について指導する。 ⑤学術論文を熟読し、その内容について議論する。 ⑥演習レポートの作成法を指導する。				
【 評価基準 】 演習への取り組み態度および課題到達度より総合的に評価する。				
【 教 材 等 】 学術論文等			【 備 考 】 上野：1号館5階（公衆衛生学研究室）TEL 072-866-3123 太田：1号館5階（環境保健学研究室）TEL 072-866-3120	

科 目 名	配当年次	開講期	単位数	担 当 者
医薬品化学特論 Advanced Medicinal Chemistry	1	後期	2	アンドウアキラ、オモテマサアキ 安藤 章、表 雅章
【 授業概要・目的 】 本特論では、有機化学の知識をもとに、現在臨床で用いられている医薬品をはじめとした多様で複雑な分子の構造と合成及びその合成法に関する反応機構などについて論じるとともに、それら医薬品の構造解析を含む化学構造に基づいた構造活性相関などについて論じる。（8回：安藤担当，7回：表担当）				
【 到達目標 】 ひとつの有機合成反応をいろいろな視点から考察することで、大学院生に必要な考える力を養う。				
【 指導方法と留意点 】 プリントを用い、講義形式で行う。				
【 授業計画 】				
回数	テーマ	内容・方法 等		
1	医薬品合成に関連する反応について (安藤)	医薬品の合成における重要な反応について説明する。		
2	医薬品合成に関連する反応について (安藤)	同上		
3	代表的な疾患と主な治療薬について (安藤)	高血圧症の治療薬の作用と化学構造および合成法について説明する。		
4	代表的な疾患と主な治療薬について (安藤)	同上		
5	代表的な疾患と主な治療薬について (安藤)	脂質異常症の治療薬の作用と化学構造および合成法について説明する。		
6	代表的な疾患と主な治療薬について (安藤)	糖尿病の治療薬の作用と化学構造および合成法について説明する。		
7	代表的な疾患と主な治療薬について (安藤)	動脈硬化症の治療薬の作用と化学構造および合成法について説明する。		
8	代表的な疾患と主な治療薬について (安藤)	消化性潰瘍の治療薬の作用と化学構造および合成法について説明する。		
9	代表的な疾患と主な治療薬について (表)	気管支拡張薬の合成法について説明する。		
10	代表的な疾患と主な治療薬について (表)	同上		
11	代表的な疾患と主な治療薬について (表)	気管支拡張薬の薬理作用について説明する。		
12	代表的な疾患と主な治療薬について (表)	同上		
13	代表的な疾患と主な治療薬について (表)	気管支拡張薬の製剤方法について説明する。		
14	代表的な疾患と主な治療薬について (表)	気管支拡張薬の構造活性相関について説明する。		
15	まとめ (表)	-		
【 評価基準 】 受講態度および課題到達度より総合的に評価する。				
【 教 材 等 】 プリント等			【 備 考 】	

科 目 名	配当年次	開講期	単位数	担 当 者
製剤学特論 Advanced Pharmaceutical Technology	1	前期	2	ハシモト ナオミ、サクマ シンジ 橋本 直文、佐久間 信至
【 授業概要・目的 】 本特論では、物理化学、物理薬剤学、生物薬剤学の基礎知識をもとに、医薬品の開発においてどのような製剤学的な取り組みが行われてきたか、過去から現在までの移り変わりを紹介する。また、医薬品の開発に立ちはだかる最近の問題に対して、どのような製剤学的解決策が取られようとしているのか、日欧米製薬企業及びベンチャー企業の最新情報を交えて教授する。				
【 到達目標 】 ドラッグデリバリーシステム（DDS）を含めた最新の製剤学の実際の情報を理解して、考察することができる				
【 指導方法と留意点 】 講義形式及びセミナー形式で行うので、必ず出席すること				
【 授業計画 】				
回数	テーマ	内容・方法 等		
1	医薬品開発と製剤設計（橋本）	医薬品開発とそこでの製剤設計について		
2	製剤の概要（佐久間）	各種製剤の概要について		
3	同上（佐久間）	同上		
4	経口製剤の設計と評価（橋本）	経口製剤の設計と評価について		
5	同上（橋本）	同上		
6	注射剤の設計と評価（橋本）	注射剤の設計と評価について		
7	同上（橋本）	同上		
8	軟膏剤等その他の製剤の設計と評価（橋本）	軟膏剤等その他の製剤の設計と評価について		
9	同上（橋本）	同上		
10	DDSとは何か（佐久間）	DDSの目的や概念について		
11	経口投与型DDSの概要（佐久間）	消化管の特性から経口投与型DDSについて		
12	注射投与型DDSの概要（佐久間）	体内動態の特性から注射投与型DDSについて		
13	経皮投与型DDSの概要（佐久間）	皮膚の特性から経皮投与型DDSについて		
14	経肺投与型DDSの概要（佐久間）	肺の特性から経肺投与型DDSについて		
15	新しい医療とDDS（佐久間）	新しい医療とそこでのDDSについて		
【 評価基準 】 受講態度および課題到達度をレポートなどで総合的に評価する。				
【 教 材 等 】 プリント、スライド等			【 備 考 】	

科 目 名	配当年次	開講期	単位数	担 当 者
薬物動態学特論 Advanced Pharmacokinetics	1	前期	2	ヤマシタ シンジ、イマイ キミエ 山下 伸二、今井 公江
【 授業概要・目的 】 本特論では、薬剤学及び薬物動態学の原理を学習するとともに、医薬品開発における薬物動態学の意義や利用法等について実例を通して論じる。また、個別化医療及び薬物間相互作用等の観点から、医薬品の適正使用における薬物動態学の意義や重要性について論じる。				
【 到達目標 】 薬物動態学の理論を理解し、医薬品開発や臨床の現場に応用するための方法を考察することが出来る。				
【 指導方法と留意点 】 講義形式およびセミナー形式で行い、必要に応じて担当教官が個別に指導する。				
【 授業計画 】				
回数	テーマ	内容・方法 等		
1	医薬品開発における動態研究 (山下)	企業における動態研究の現状と問題点		
2	同上	探索的臨床試験について		
3	同上	新たな医薬品開発ストラテジー		
4	体内動態予測法 (山下)	In vitroデータからの予測について		
5	同上	動物実験データからの予測について		
6	薬物血中濃度推移のシミュレーション (山下)	コンピューターを用いたシミュレーションの実施 (線形モデル)		
7	同上	コンピューターを用いたシミュレーションの実施 (非線形モデル)		
8	同上	薬物相互作用のシミュレーション		
9	臨床現場における薬物動態学 (今井)	医薬品の臨床使用における動態学の重要性について		
10	同上	添付文書の動態パラメータについて		
11	医薬品の適正使用における薬物動態学 (今井)	薬物間相互作用の解析		
12	同上	高齢者の薬物動態について		
13	同上	疾病による薬物動態の変動について		
14	個別化医療における薬物動態学 (今井)	ポピュレーション動態解析法		
15	同上	TDMについて		
【 評価基準 】 受講態度および課題到達度をレポートなどで総合的に評価する。				
【 教 材 等 】 プリント 参考書 (「新しい図解薬剤学」 杉林堅次・山下伸二他著 南山堂、「生物薬剤学」 林正弘・谷川原祐介編 南江堂)		【 備考 】 山下担当 (1-8) 今井担当 (9-15)		

科 目 名	配当年次	開講期	単位数	担 当 者
臨床統計学特論 Advanced Clinical Statistics	1	後期	2	コホリエイコ 小堀 栄子
【 授業概要・目的 】 本特論では、医薬品の臨床開発に必須である臨床統計の実際を習得するために、臨床研究の実例に基づき、臨床統計の理論と実際について教授する。				
【 到達目標 】 基本的な統計手法を理解し、論文解釈に応用できる。				
【 指導方法と留意点 】 講義を中心に行う。希望があれば、統計解析ソフトを用いた解析のデモンストレーションを行う。				
【 授業計画 】				
回数	テーマ	内容・方法 等		
1	統計の考え方	母集団、標本、サンプリング、推論、データの種類		
2	データの要約	平均値、中央値、四分位、分散、標準偏差、標準誤差、正規分布、度数分布、ヒストグラム		
3	効果の指標	割合・比・率、罹患率、有病率、相対リスク、寄与リスク		
4	研究デザインと解析 I	介入研究、ランダム割り付け、コホート研究 (1)		
5	研究デザインと解析 II	コホート研究 (2)、症例対照研究、横断研究		
6	バイアス	誤差、バイアス、交絡と調整、標準化		
7	推定と検定	統計学的推論、点推定、区間推定		
8	サンプルサイズ	サンプルサイズの計算		
9	1標本の検定	1標本と母集団の比較		
10	2群の比較	独立2群の比較、対応2群の比較		
11	分散分析	独立多群の比較、対応多群の比較		
12	相関と回帰	相関係数、回帰係数、直線回帰		
13	多変量解析 I	重回帰分析		
14	多変量解析 II	多重ロジスティック回帰分析		
15	多変量解析 III	比例ハザード分析		
【 評価基準 】 定期試験。				
【 教 材 等 】 資料を配付する。参考書は随時紹介する。			【 備 考 】	

科 目 名	配当年次	開講期	単位数	担 当 者
医薬品開発学演習 Drug Development Seminar	1	通年	6	アンドウ アキラ 安藤 章
【 授業（指導）概要・目的 】 本演習では、医薬品開発プロセスに関する基本的な知識を踏まえて、医薬品開発の実際について実例に沿って演習を行う。また、連携医療機関での治験審査委員会への参加等を介して、医療現場での治験プロセスについて演習を行う。このような演習を通して医薬品開発プロセスの理解を深めさせる。				
【 到達目標 】 医薬品開発において、研究計画の策定、実験方法の確立、実験結果の解析と考察などができる。また、その研究成果を論文として発表できる。				
【 指導方法と留意点 】 各専攻分野毎に、実験や論文読解をととして、研究指導担当教員が個別に指導する。				
【 授業（指導）計画 】 ① 各専攻分野の研究課題に対する実験計画の策定を指導する。 ② 各専攻分野の研究課題に対する実験手技を指導する。 ③ 実験結果に関して正確な解析法を指導する。 ④ 実験結果の考察について指導する。 ⑤ 学術論文を熟読して、その研究成果について議論する。 ⑥ 論文の作成法を指導する。				
【 評価基準 】 演習への取り組み態度および課題到達度より総合的に評価する。				
【 教 材 等 】 各専攻分野の学術論文			【 備 考 】 コホリ エイコ、サカマ シンジ、バシモト ナオミ、ヤマシタ シンジ 小堀 栄子、佐久間 信至、橋本 直文、山下 伸二	

科 目 名	配当年次	開講期	単位数	担 当 者
医療薬学特別研究 Clinical Pharmacy Seminar	1～4	通年	12	オキタ キヨカス 荻田 喜代一
<p>【 授業（指導）概要・目的 】</p> <p>全学年を通じた研究活動により博士論文をまとめるための必修科目とする。研究テーマを「臨床薬学」、「健康薬学」、「医薬品開発学」の3つの分野に分けるが、いずれの分野においても、医療現場の問題を研究課題として、複数の大学院教員有資格者で構成される研究室体制の中で、主たる指導教員及び補助指導教員による研究指導体制をとる。</p> <p>「臨床薬学分野」の研究テーマでは、医療現場における様々な問題点の解決を目指して、①生体機能の新規メカニズムの解明に関する研究、②病態発症メカニズムの解明に関する研究、③新しい薬物療法の開発に関する研究、④医薬品の有効性と副作用の実態に関する研究などを課す。「健康薬学分野」の研究テーマでは、予防医学・健康科学に関する研究能力を養成するために、①食の安全に関する研究、②環境毒性に関する研究、③感染微生物の生態や院内感染予防に関する研究などを課す。「医薬品開発学分野」の研究テーマでは、医療現場で必要とする有効かつ安全な医薬品のシーズを効果的に探索・合成のために、①医薬品の新規合成法の開発や新規反応の探索に関する研究、②医薬品の吸収・代謝・排泄などの体内動態に関する研究、③医薬品製剤の新規調製法の開発に関する研究などを課す。なお、「医療薬学特別研究」は、主に大学施設で実施するが、必要に応じて連携病院でも実施する。本研究科に「医療コース」を設置し、臨床現場での実践的な臨床研究を実施することにより、即戦力となる臨床研究者を育成すべく、医療機関での臨床研究を実施する。</p>				
<p>【 到達目標 】</p> <p>各専攻分野において、研究計画の策定、実験方法の確立、実験結果の解析と考察などができる。また、その研究成果を論文として発表できる。①薬の専門家として、豊かな人間性と生命の尊厳について深い識見をもち、人の命と健康な生活を守る使命感・責任感を有する。②薬学・医療の進歩と改善に資するために、臨床現場で解決すべき課題を発見し生涯にわたりそれを解決しようとする意欲と研究能力を有する。③薬学教育・研究の指導者として貢献できる能力を有する。</p>				
<p>【 指導方法と留意点 】</p> <p>(1) 複数教員指導：大学院生に対して、主指導教授を中心に複数教員による教育・研究指導を行うことにより、広い視野から多面的、総合的に問題を捉える習慣と能力を養成する。</p> <p>(2) 個別指導：大学院生の専攻分野及び経歴の多様性、ならびに大学院生個々の志向や問題意識の違いに対処するため、大学院生個々に個別の研究プログラムを作成して教育・研究指導を行うとともに、大学院生との日常的接触を密にして教育・研究の効果を高める。</p>				
<p>【 授業（指導）計画 】</p> <p>主指導教員を中心として複数の指導教員が研究テーマの研究方法について学生とディスカッションを行い、大学院生が自立して研究を継続できる基本的な能力を養成する。</p> <p>(1) 1年次</p> <p>① 研究計画概要の提出、② 文献等による関連研究の整理、③ 予備実験・予備調査の実施、④ 本実験・本調査の実施</p> <p>⑤ 1年目の研究成果の中間報告（学会での口頭発表・論文発表は随時）</p> <p>(2) 2年次</p> <p>① 本実験・本調査の継続実施、② 研究の中間取りまとめと問題点の検討、③ 追加実験・追加調査の検討・実施</p> <p>④ 2年目の研究成果の中間報告（学会での口頭発表・論文発表は随時）</p> <p>(3) 3年次</p> <p>① 本実験・本調査の継続実施、② 研究の中間取りまとめと問題点の検討、③ 追加実験・追加調査の検討・実施</p> <p>(4) 4年次</p> <p>① 実験・調査データの整理と解析、② 解析結果等の取りまとめ、③ 学位論文の最終原稿作成、④ 予備審査、学位論文の改稿（学位請求論文の提出）、⑤ 審査委員の決定と受理判定<薬学研究科委員会>、⑥ 論文審査・最終試験及び公聴会</p> <p>⑦ 最終審査<薬学研究科委員会>、⑧ 審査結果の発表、学位授与</p>				
<p>【 評価基準 】</p> <p>研究態度および課題到達度により総合的に評価する。</p>				
<p>【 教材等 】</p> <p>各専攻分野の学術論文</p>		<p>【 備考 】</p> <p>アキタ トシマ、アノドリ アキラ、ウエノ ヒトシ、オオタ ヨウイチ、秋澤 俊史、安藤 章、上野 仁、太田 壮一、コリノ タケユキ、サカマ シンジ、ハイモト ナオミ、マエダ サダアキ、河野 武幸、佐久間 信至、橋本 直文、前田 定秋、ヤマタ シンジ、クラモト ノブユキ、シュロウ マコト、マツウラ テツロウ、山下 伸二、倉本 展行、首藤 誠、松浦 哲郎</p>		

大学院シラバス

2014年4月

発行 常翔学園 摂南大学

枚方学舎 〒573-0101 大阪府枚方市長尾峠町45-1
電話 (072) 866-3100 【薬学研究科事務室】

